

荒川上流部改修から
100年
1918-2018

江戸時代の治水・利水工事図

会の川の締切り・1594(文禄3)年 備前堀・1604(慶長9)年

天狗岩用水・1602(慶長7)年

岡登用水・1664(寛文4)年

羽生領用水・1644(正保元)年

葛西用水・1660(万治3)年

福岡堰・1625(寛永2)年

豊田堰・1625(寛永2)年

新川通の開削・1621(元和7)年

赤堀川の開削・1621(元和7)年

江戸川の開削・1635~1641(寛永12~18)年

鬼怒川・小貝川の開削・1608~1624(慶長13~元和10)年

岡堰・1630(寛永7)年

中島用水・1624~1643(寛永年代)

久下の締切り・新川の開削・1629(寛永6)年

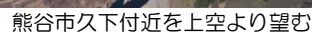
八丁堤・1629(寛永6)年

荒川六堰のうち五堰を設ける・1597(慶長2)年

備前堤・1596~1615年(慶長年代)

※市の堀用水・逆木用水は栃木県さくら市周辺に位置するため、図中には表記されていません。

台地
丘陵
火山・山地
農業用水
旧河道
伊奈氏



この工事を指揮したのが、伊奈忠治で、父親の忠次も利根川の付け替えや荒川に堤防を築いた人として知られています。荒ぶる川の治水に親子二代で立ち向かった伊奈一族の名前は荒川の歴史に深い尊敬とともに今も残っています。

▶ 伊奈忠次

忠次は江戸周辺の天領の代官頭として治水事業や用排水路の整備に治績を残しました。

利根川筋では会の川を1594（文禄3）年に締め切り利根川を統合して埼玉県平野東方へ移し、最終的には利根川を銚子へ導く利根川東遷事業に着手しました。

荒川筋では荒川六堰のうち五堰を設け、熊谷扇状地に広がる水田地帯を開発しました。五丁台（桶川市）で綾瀬川を備前堤で締め切り、荒川旧流路を現元荒川に統合し、末流を瓦曽根溜井に導き、埼玉県東南部を開発。現荒川筋ではさいたま市土屋地先に土屋古堤を築き、既にあったと見られる堤を修築して千住（足立区）までの大囲堤にしました。



赤堀川切広之図（東遷事業の様子）

▶ 伊奈忠治

伊奈忠治は、兄忠政の死後、赤山（川口市）に陣屋を構え、関東諸代官を統括する関東郡代となり父忠次の事業を実質的に継ぎました。

利根川東遷事業は佐波（大利根町・現加須市）・栗橋間の新川通開削、栗橋から常陸川につなぐ赤堀川の開削に着手。江戸川の上流部約20kmの開削を重臣小島庄右衛門に担当させ、1641（寛永18）年に完成させました。

また、鬼怒川・小貝川の下流部を付け替え改修し分離させました。

荒川筋では荒川（元荒川）を熊谷久下地先で締め切り、現荒川流路の和田吉野川、市野川に付け替え入間川筋に付け替える荒川西遷事業を行いました。

また、木曽呂（川口市）・附島（さいたま市緑区）間に八丁堤を築いて見沼溜井を造成しました。

コ ラ ム 埼玉県最古の用水路 ～備前渠用水路～

「備前堀」の愛称で親しまれている備前渠は、1604（慶長9）年に伊奈備前守忠次が江戸幕府の命で開削した埼玉県最古の用水路です。今でも素掘りの所が多く、当時の面影を残しています。

また、2006（平成18）年2月2日には、長い歴史や優れた景観を誇る疎水として「疎水百選」に選定されました。

このほかにも埼玉県内には「備前堤」「備前堀」「備前渠」など備前の名のつく河川や水路が見られますが、これらの名は、伊奈「備前」守に由来しています。



備前渠用水路

アクセス

伊奈忠次墓

交通：JR高崎線「鴻巣駅」下車、徒歩約8分

住所：埼玉県鴻巣市本町8-2-31（勝願寺）



現在の東京の基盤を作るという快挙を成し遂げた伊奈家の人々が眠る

